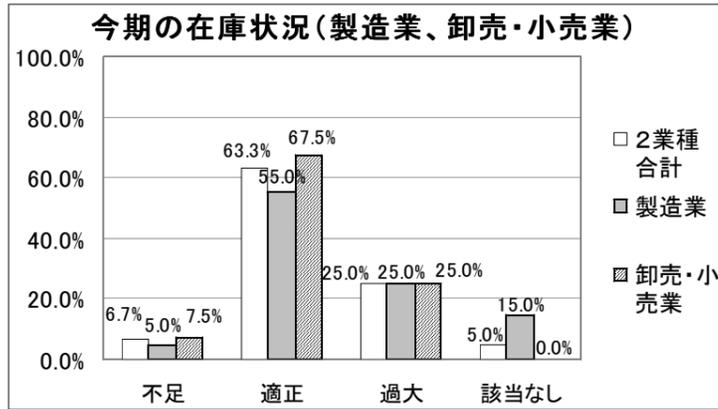
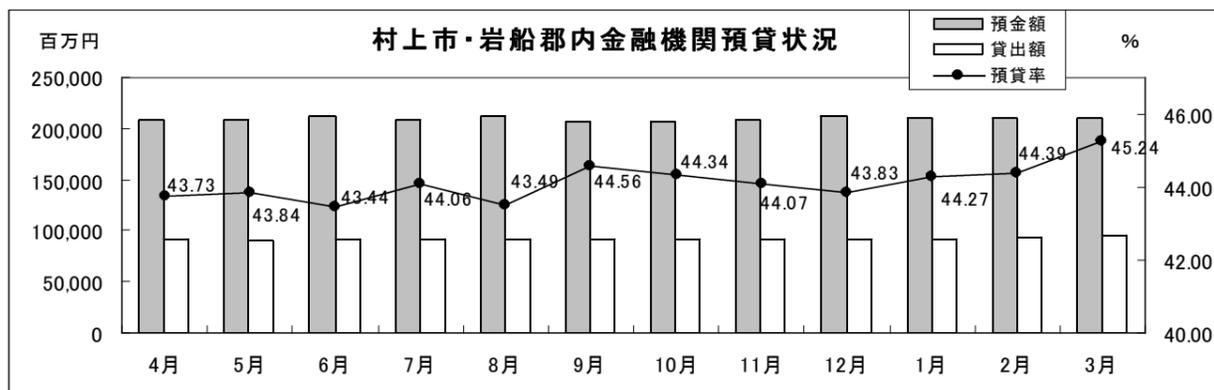
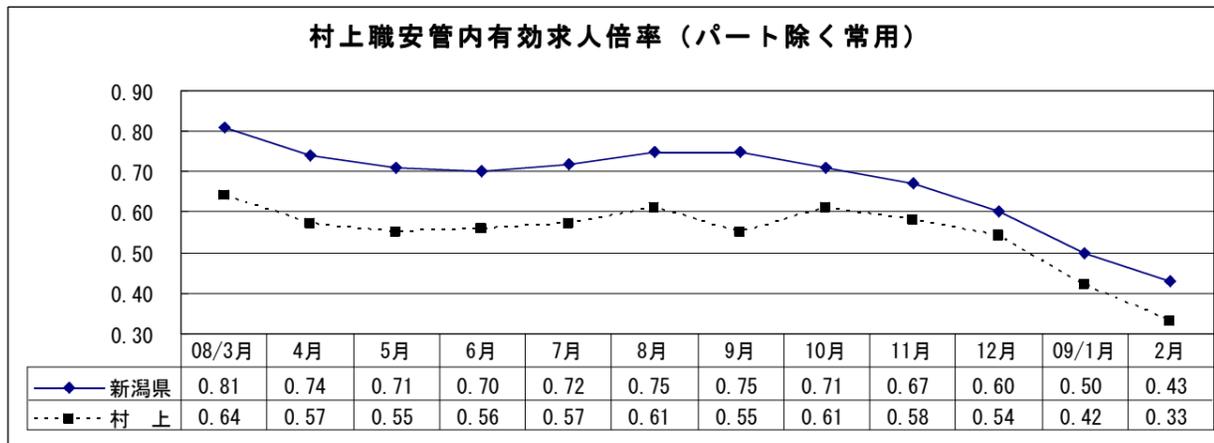
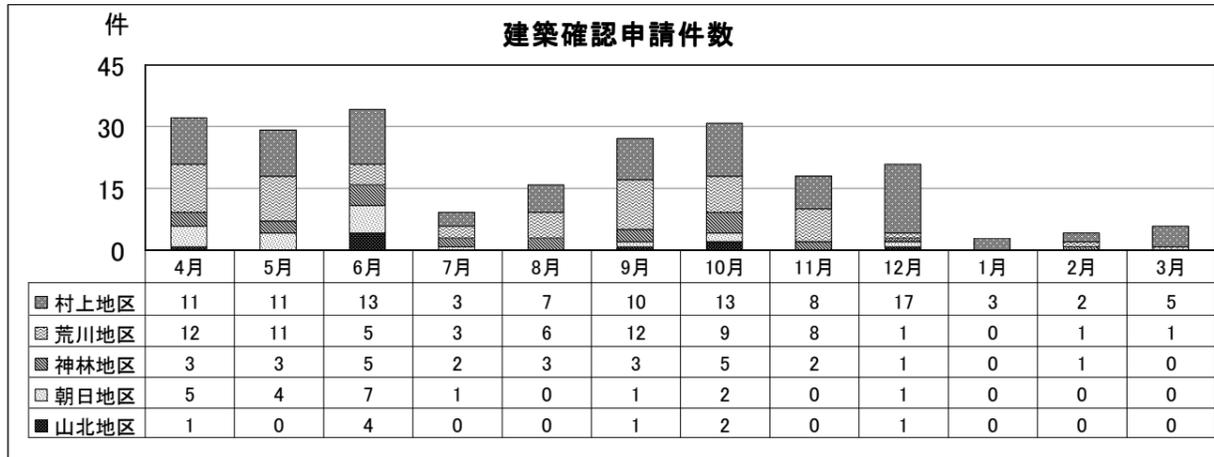


村上市景況調査報告

平成21年1～3月期の実績と平成21年4～6月期の見通し



製造業及び卸売・小売業において、在庫を「適正」とする企業は63.3% (前期比1.9ポイント低下)、「過大」とする企業は25.0% (同0.8ポイント上昇)、「不足」とする企業は6.7% (同2.2ポイント上昇)となった。

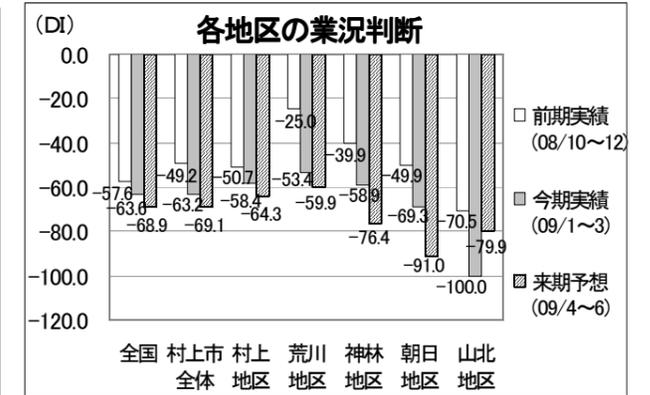
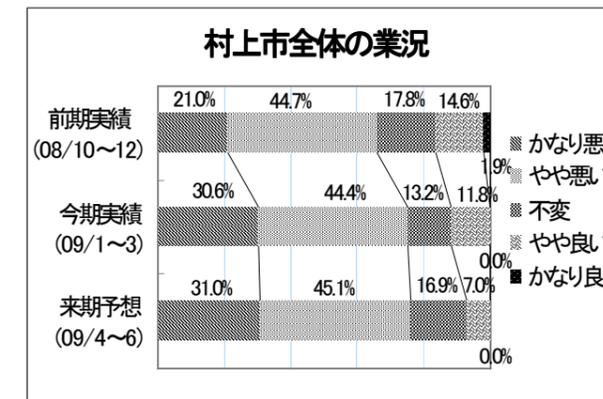


調査時期：2009年3月中旬～2009年4月上旬
 調査対象：村上市内事業所 200社 有効回答数 144社 (回収率72.0%)
 [業種別内訳] 卸売・小売業64社、建設業41社、製造業28社、飲食店・宿泊業20社、サービス業47社
 [地区別内訳] 村上地区103社、荒川地区33社、神林地区21社、朝日地区20社、山北地区23社
 実施機関：村上市産業観光部商工観光課
 村上商工会議所、荒川商工会、神林商工会、朝日商工会、山北商工会
 分析機関：村上商工会議所
 全国状況：日本政策金融公庫調査 全国小企業動向調査結果 (09.1～3実績、09.4～6見通し)

DI = 「良い」企業割合 - 「悪い」企業割合 (売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。)

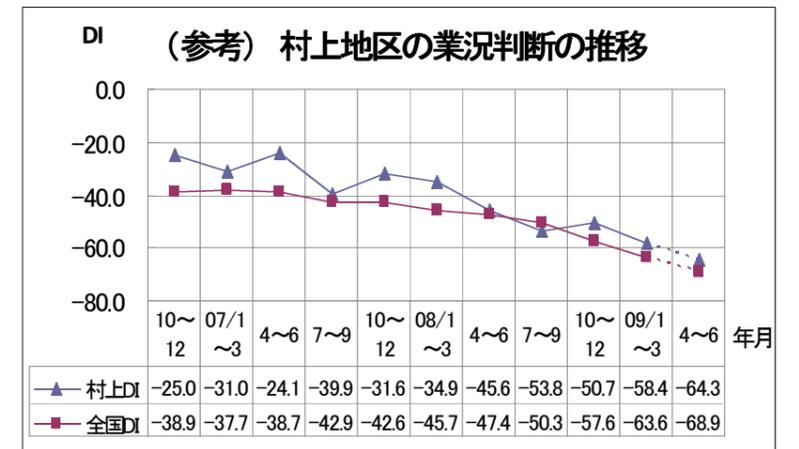
『景況はさらに厳しさを増している』

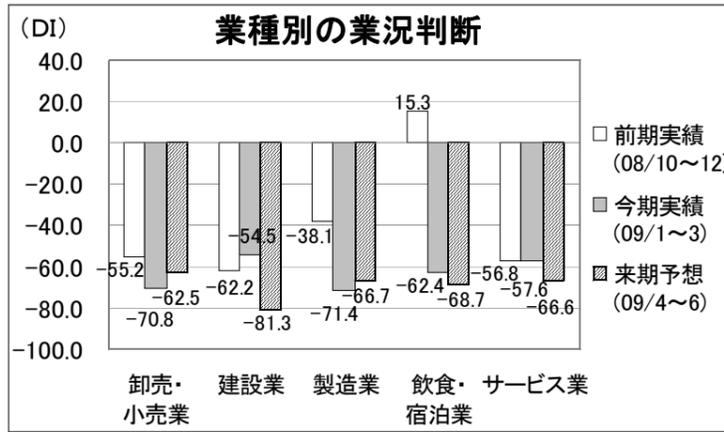
■村上市の業況



今期(1～3月期)の業況判断DI(全業種計)は、前期(08年10～12月期)に比べて14.0ポイント低下し、▲63.2となった。2期連続の低下で、調査開始(08年4月)以来、最低の水準。なお全国DIは前期比6.0ポイント低下の▲63.6で当地域と同水準となっている。

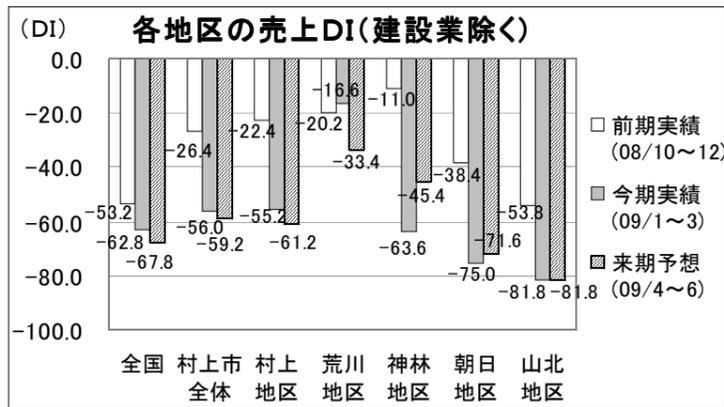
来期(4～6月期)については、高速料金の引き下げや定額給付金の支給等による消費回復への期待感が一部にあるものの、総体的に受注・売上減少など先行き不透明から、景況はさらに厳しさを増して、5.9ポイント低下する見込みである。





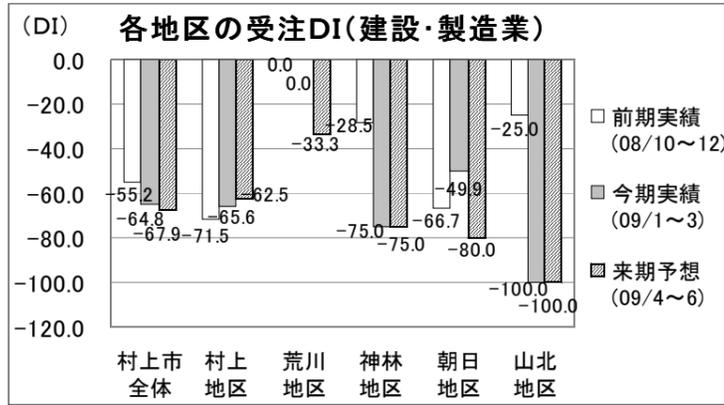
今期の業種別業況判断DIは、建設業を除く4業種が低下。なかでも低下が際立っているのが飲食・宿泊業(77.7ポイント低下)と製造業(33.3ポイント低下)である。外食回数や宿泊客の減少、取引先の倒産や自動車・電機関連の受注不振等が要因と思われる。

来期については、卸売・小売業と製造業が上昇する見込みで、建設業、サービス業、飲食・宿泊業が低下する見込みである。



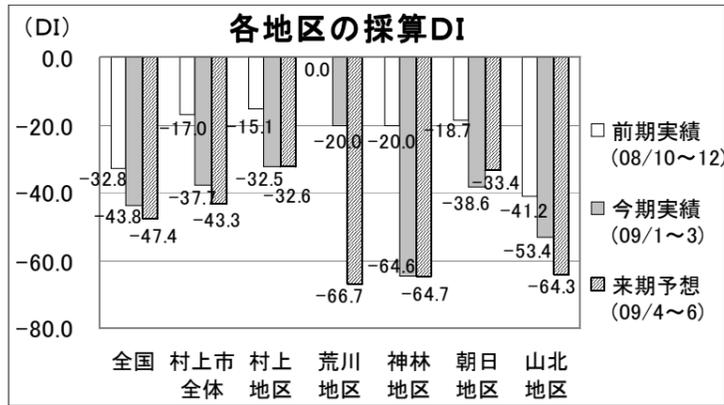
今期の売上DI(建設業除く)は、▲56.0で前期に比べ、29.6ポイントの大幅低下となったが、全国DIより6.8ポイント上回った。来期においては、さらに3.2ポイント低下し、▲59.2となる見通しで、全国DIの見通しより8.6ポイント上回る見込みである。

来期について地区別に見てみると、神林地区と朝日地区が上昇の見込みで、山北地区は同水準、村上地区と荒川地区が低下する見込みである。



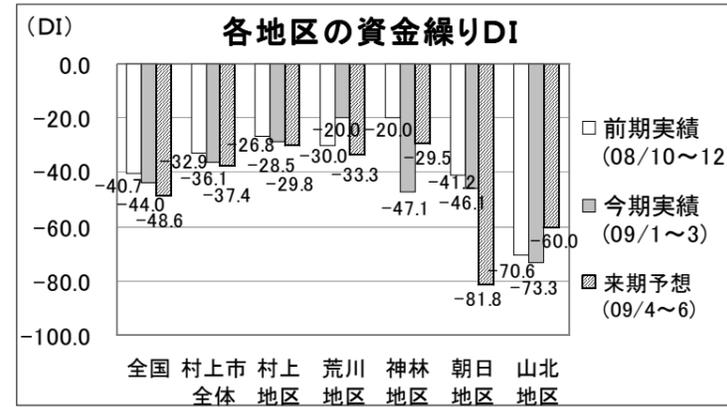
今期の受注DI(建設・製造業)は、▲64.8で前期に比べ9.6ポイント低下した。低下は2期連続となった。来期については、さらに3.1ポイント低下し、▲67.9となる見通しである。

来期について地区別に見てみると、村上地区で上昇の見込みで、神林地区と山北地区が同水準、荒川地区と朝日地区は低下する見込みである。



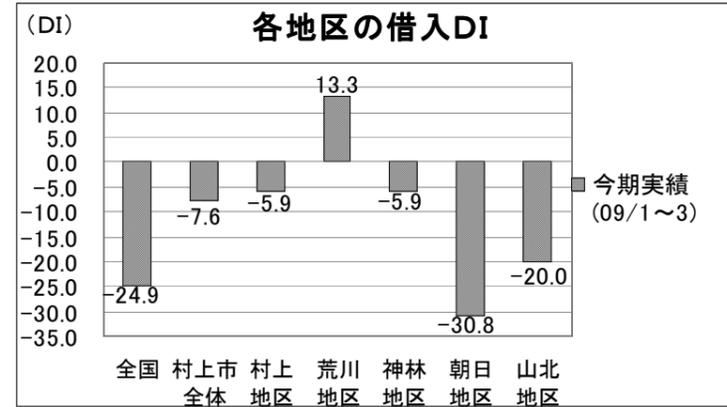
今期の採算DI(全業種計)は、▲37.7で、前期に比べ20.7ポイントの大幅低下となったが、全国DIより6.1ポイント上回った。来期については、さらに5.6ポイント低下し、▲43.3となる見通しである。

来期について地区別に見てみると、朝日地区を除く4地区で低下する見込みである。



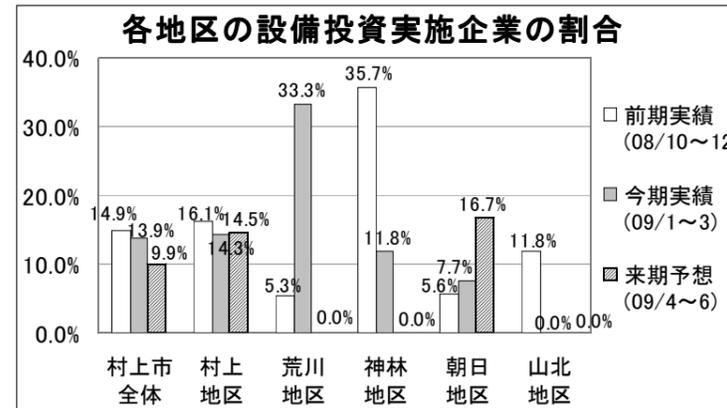
今期の資金繰りDI(全業種計)は、▲36.1で前期に比べ3.2ポイント低下した。低下は2期連続となったが、全国DIより7.9ポイント上回っている。来期については、さらに1.3ポイント低下し▲37.4となる見込みであるが、全国DI▲48.6よりも11.2ポイント上回る見通しである。

来期について地区別に見てみると、神林地区と山北地区が上昇し、村上地区、荒川地区、朝日地区で低下する見通しとなっている。



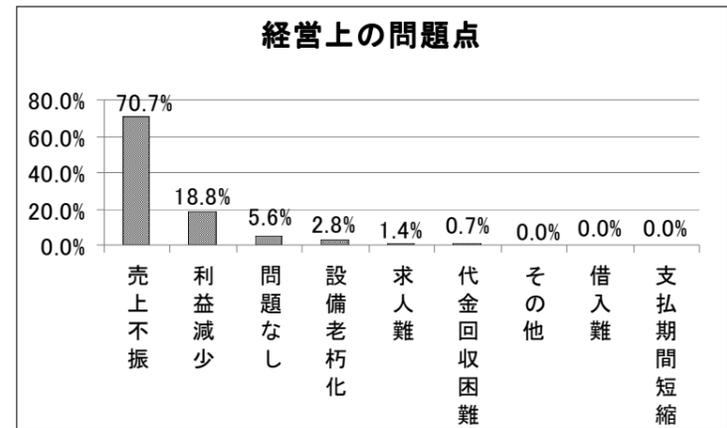
今期の借入状況は、「容易になった」が4.2%、「難しくなった」が11.8%で、DIは▲7.6(前期は▲7.2)となり、全国DIより、17.3ポイントと大幅に上回った。

地区別では、ばらつきがあり、荒川地区が13.3とプラスに転じた他、村上地区と神林地区が▲5.9で村上市全体のDIより水準が高くなった。山北地区は全国DIを下回って▲30.8、朝日地区も全国DIに近い▲20.0となった。



今期、設備投資した企業の割合は、13.9%で、前期より1.0ポイント低下した。来期に設備投資を予定している企業の割合は9.9%で、今期に比べ4.0ポイントと低下する見通しである。

来期について地区別に見てみると、村上地区、朝日地区で上昇、山北地区は同水準、荒川地区、神林地区で低下する見通しである。



経営上の問題点をみると、第1位が売上不振(前期比11.1ポイント上昇)、第2位が利益減少(同9.0ポイント低下)、第3位が問題なし(同3.1ポイント上昇)、第4位が設備老朽化(同1.0ポイント低下)となっている。

全国では、第1位が売上不振(66.3%)、第2位が利益減少(18.4%)、第3位が設備老朽化(4.1%)、第4位が求人難(1.8%)となっている。